

愛知県震度観測・調査報告書－第39報－の概要

1 調査の概要と目的

この調査は、地震動の伝わり方や地域特性を明らかにするため、県内全市町村に設置している計測震度計による震度情報ネットワークの震度観測データ等を活用して、平成31年1月～令和元年12月に発生した地震と震度に関する情報をまとめるもので、防災対策の基礎資料、県民の地震に対する理解を深めるために活用されることを目的として報告書を作成している。昭和56年より1冊/年で発行しており、本書で39冊目となる。トピックスとして、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会で検討される観測データ及び近年の愛知県付近を震源とする地震活動の推移について掲載した。

2 愛知県震度観測・調査報告書－第39報－の概要

(1) トピックス

ア 南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会で検討される観測データ

2018年11月1日から気象庁が発表している南海トラフ地震に関連する情報の内、南海トラフ地震臨時情報の発表の根拠となる観測データと、その検討を行う南海トラフ地震臨時情報評価検討会について述べ、評価検討会後の報道発表資料に用いられる主なデータについて解説している。

イ 愛知県で発生する地震は増えているか？

気象庁が作成した一元化震源カタログのうち、2000年1月1日から2018年4月30日までのデータを用いて解析し、愛知県付近を震源とする地震活動の推移について述べている。

(2) 震度観測資料

ア 愛知県における地震

2019年に、県内のいずれかの市町村で震度1以上が観測された地震の発生は29回であり、震度4以上が観測された地震の発生はなかった。

イ 国内の主要な地震

2019年に、国内で被害を伴った地震の発生は6回であった。

ウ 世界の地震

2019年に、世界で人的被害を伴った地震の発生は22回であり、死者が100名を超える海外の地震の発生はなかった。

3 調査研究成果の活用

調査報告書は、防災会議に報告するとともに、防災関係機関、市町村に配付し、地震防災対策の基礎資料として活用する。

また、県民が自由に閲覧できるように公立図書館、県民相談・情報センター等に配付し、地震についての理解を深めてもらう。